

[様式 1 1]

(対象事業：先進的な展示・教育普及主要の開発等の事業)

事業名：「五感を使う回想法：I Tとハンズオンを活用した高齢者対象プログラムとアウトリーチ活動」

事業者名：光記念館

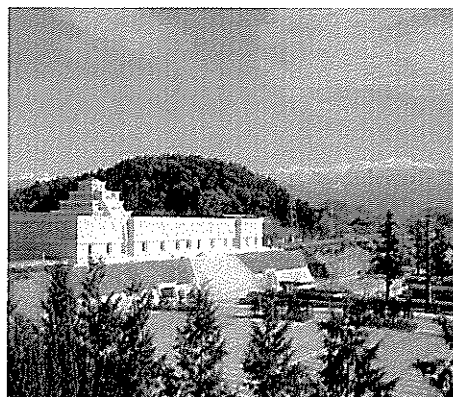
連携事業館名：老人ホーム、養護福祉施設、
近郊小・中学校

住所：岐阜県高山市中山町175

T E L：0577-34-6511

F A X：0877-34-6065

H P アドレス：<http://www.hikarukinenkan.or.jp/>



①施設概要

光記念館は、光をテーマに平成 11 年 4 月 8 日、飛騨高山にオープンした博物館・美術館複合型のミュージアムである。近・現代の日本画・書等を展示する美術展示室、飛騨地方から産出される化石・岩石を中心に、飛騨の歴史と自然史等を紹介する飛騨展示室、マヤ・アンデスを主とした世界諸文化の遺物と日本の縄文時代の出土品等を展示する人類史展示室などから構成されている。

②事業の意図目的

社会福祉施設事業の支援として、社会福祉施設に当館の美術品を持ち込み、本物の美術作品に触れさせ、優れた美術作品から感動や喜びを体験して頂く。また、去年は回想法を取り入れた I T を活用する教育普及を行い格別な評価を頂いたが、本年は更に新手法として I T・C D・ハンズオンを組み合わせた手軽にできる回想法プログラムの開発を目指すと共に美術館として館所蔵の肉筆浮世絵を鑑賞して頂く。

学校における総合学習の支援として小・中学校に当館の美術品を持ち込み本物の美術作品に触れ、優れた美術品から感動や喜びを味わって頂くと共に、3色摺り版画の体験を行う。岐阜県飛騨地域という山間部における交通事情のハンデを少しでも補い、多くの人々に美術鑑賞をして頂く。

③事業概要

本事業は、高齢者で身体が不自由な為、外出できない方が多く文化施設に赴く事が不可能という福祉施設の現状に鑑み、福祉支援としてアウトリーチ活動を行う事を原点に、特に昨年度好評を得た、I T を活用した高齢者対象の回想プログラムに加え、本年は新手法を取り入れ、「五感を使う回想法：I T (マルチメディア)・ハンズオンを組み合わせた回想法の開発」と「肉筆浮世絵の美術品鑑賞」を行う。

また、「教育普及活動」という観点から周辺地域の小中学校のご要望に柔軟にお応えする出張美術館を行う。

④事業の製作物及び報告書等

作成した報告書等：平成17年度報告書（冊子）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 870 人

内 訳 小学生：421名、中学生：304名、大人：145名

(1) 事業の実施状況について

実 施 日	内 容 (学校・施設名)
8月～9月	打ち合せ・準備期間
10/17	高山市立南小学校
10/18	下呂市立小坂小学校
10/20・21	高山市立中山中学校
11/10・11	高山市立松倉中学校
11/21	高山シニアホーム
11/25	高山市立国府小学校
11/28	高山市立北小学校
12/6	特別養護老人ホーム 豊楽園
12/8	特別養護老人ホーム 新宮園
12/9	身体障害者療護施設 飛騨うりす苑
12/12	高山市立新宮小学校
12/13	高山市立江名子小学校
12/14	特別養護老人ホーム 南風園



(2) 地域との連携について

福祉施設の介護士の方々から「毎年ぜひやってもらいたい。年に1度のみだけでなく、数回“回想法”を行うことで認知症の予防に役立つと思う」という要望を多数頂いている。

また、出張美術館の利用を希望して下さった学校には、出向いて担当の先生と打ち合わせを行い、学校側の希望を汲み取った内容で開催した。教員の方々から「生徒たちの感性を育てるためにも、来年もぜひやって欲しい」というお声も頂いている。

(3) 成果物について

平成17年度報告書：100部

(4) 参加者の反応

老人ホーム・身体障害療護施設

- 高齢者は懐かしいと大変喜んで下さった。
- 思っていた以上に紙風船が大人気だった。身体の不自由な方に紙風船を渡すと、必死で打とうと努力され、出来なかったラリーが数分後には出来るようになり、「今度孫に教えてあげたい」、「孫が来た時、一緒に遊ぼうと思う」涙ぐみながら話す方も数名いた。
- ITを使った静止画や懐かしい音が流れると、あちらこちらから口々に声が聞こえ、話しているお年寄りにマイクを向けると懐かしげに色々なお話をして下さいました。
- 介護士の方からは「出できれば年1回の行事ではなく博物館と福祉施設が連帯した療法として、年に数回行いたい」、「年に数回“回想法”を行うことで認知症の予防に役立つと思う」などお声を頂いた。

小・中学校

- 子供たちは本物の浮世絵を見ることにより、日本の持つ伝統文化を見直し、興味を持ってもらえた。
- 小学校より中学校の授業中の反応はほとんどないが、アンケート用紙には、浮世絵に興味を持つことが出来たという意見が多数あった。
- 3色刷り版画は大変人気だった。同じ様にしているにも関わらず、出来上がった版画はそれぞれ違い、昔の人が同じ様に何枚も何枚も摺っていた技術に驚いていた。
- 中学校では作品の説明以外に、顔料や褐色、作品の劣化・保存などの文化財保護の話もさせて頂いた。教員の方から「今まで知らなかった修復に携わる仕事や学芸員という職業などを知ることが出来、将来生徒たちの就職にもよい影響があるのではないか」というお話を頂いた。
- 複数の教員の方から「来年もぜひやってもらいたい」、「本物に触れることにより生徒の感性が広がり、感動が生まれる」というお声を頂いた。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

高齢化社会を迎え、高齢者の方々が知的・精神的に健全で充実した人生が送れるように博物館の果たす役割・使用も多様化・高度化している。しかし、施設等の充実しての高齢者ケアでは予算的、人的に困難な面が否めないのが現状である。

当館の事業は、高齢者の方々の中にお体が不自由で施設から外出できない方が多くいる事を鑑み、高齢者の学習支援・福祉支援としてアウトリーチ活動及びその開発を行なうものであった。

特に高齢者施設へのアウトリーチ活動は全国でも数が少なく、また、新手法と

して五感を使う回想法：I T（マルチメディア）、ハンズオン、香りを組み合わせた回想法と肉筆浮世絵の美術品鑑賞をバランス良く行なうという点で優れたものであった。